

## 教科目名 歴史学特論Ⅱ (Special Lecture on history Ⅱ)

専攻名・学年 : 全専攻 1 年 (教育プログラム 第 3 学年 ○科目)

単位数など : 選択 2 単位 (後期 1 コマ, 授業時間 23.25 時間)

担当教員 : 田中美穂

授業の概要			
欧米を中心に第一次世界大戦以降の現代史について講義する。20 世紀後半以降に世界各地で起こった地域紛争の背景にある歴史も学んでいく。EU という強固な地域共同体連合を世界に先駆けて成立させ、戦争の克服に努めて平和共存を模索してきたヨーロッパの現代史に注目しつつ、変貌し続ける現在の、そして未来の世界について考えていく。			
達成目標と評価方法		大分高専目標 (A1), JABEE 目標 (a)	
(1) 戦争や地域紛争が起こる背景やしくみを歴史的に理解し、これらを克服する方策について考える。(定期試験) (2) グローバル化が進む現在において、世界の国々や人々が平和共存するための課題について考える。(定期試験) (3) 講義内容から選んだ歴史的なテーマについて考え、論述する力を身につける。(定期試験)			
回	授 業 項 目	内 容	理解度の自己点検
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14	第一次世界大戦 第二次世界大戦(1) 第二次世界大戦(2) パレスチナ問題 東西ドイツの統一 ロシアと周辺諸国 アフリカでの紛争 現代世界の諸問題(1) 現代世界の諸問題(2) ユーゴスラヴィアの解体 9・11 事件とイラク戦争 アフガニスタンでの戦争 EU の歩みと挑戦 さまざまな国際機関の活動	○20 世紀前半に起こった二つの世界大戦について理解できる。 ○世界各地で諸民族が迫害されてきた歴史について理解できる。 ○帝国主義時代以降の欧米による世界分割や冷戦によって、負の遺産を継承させられた国々が抱える問題について理解できる。 ○ソ連(ロシア)やアメリカといった軍事大国の介入によって翻弄されてきた地域が抱える問題について理解できる。 ○地域間の平和共存を実現させた EU の取り組みについて理解できる。 ○貧困を撲滅しようとする NPO などの取り組みについて理解できる。	【理解の度合い】
15	後期期末試験		【試験の点数】 点
	後期期末試験の解答と解説		
履修上の注意	講義中に話す内容について、各自でしっかりノートまとめをすること。		【総合達成度】
教科書	毎回レジュメや資料を提供する。		
参考図書	毎回授業で紹介する。		
自学上の注意	世界史の現代史を復習し、新聞やニュースで時事問題に触れること。		
関連科目	世界史, 歴史学概説, 歴史学特論Ⅰ(専攻科)		
総合評価	達成目標の(1)~(3)について、期末試験の点数によって評価する。60 点以上が合格。60 点未満の者には再試験を行うことがある。この場合の実施方法、条件などは授業において明示する。		
			【総合評価】 点